

だから私は、

誰も見たことのない

そんなありふれた

写真集を作ることになりました。

長年連れ添った友人の脳みそから

埃を被った私を取り出して、

○△□、色とりどりの模型で

空白を埋めていこう。

雪が降り始めた頃

すでに私は余白を失っていて、

生まれて初めて

新しい頁を買いに出かけられるのです。